

# 街路樹の安全性向上を目指した取り組み



防災・メンテナンス基盤研究センター  
 緑化生態研究室 主任研究官 飯塚 康雄 室長 栗原 正夫

(キーワード) 街路樹、倒伏、落枝、安全対策

## 1. はじめに

街路樹は、植栽後から長期間経過したことにより大径木化・衰弱化が見られるものが増加し、台風等の強風時には一部に倒伏や落枝による交通障害等が発生している。このような状況の中で、街路樹の点検により危険性が高い樹木を抽出し、剪定や伐採等の対策を行うことが着手され始められてはいるものの、今後は通常の維持管理時での対応策の実施や再整備にあたっての倒伏しにくい植栽方法等の確立が求められている。

国総研では、街路樹の倒伏・落枝の実態と生育現況を把握することにより、それらの発生要因を明らかにすることで、道路管理者が街路樹の維持管理を効率的に行うための方法や倒伏・落枝を発生しにくい整備方法等について検討を行っている。

## 2. 街路樹の倒伏・落枝の実態及び生育現況

2015年度は、マスコミ報道や道路管理者へのヒアリング等による街路樹の倒伏・落枝の実態調査により、倒伏・落枝の発生形態、樹種や樹木形状等の特徴を整理している。報道件数では、過去10年間で増加傾向にあることがわかり(図1)、ケヤキやサクラ類、プラタナス類、ヤナギ類の樹種での発生が多くみられた。

また、道路管理者が実施した点検データを収集して街路樹の不健全性(樹勢不良、樹体の構造上の異常等)の現況を把握することにより、樹種や樹木形状毎に倒伏・落枝の発生に関連する要因の抽出を行っている。樹木形状別では、大径木になるにしたがって不健全な状況を示す街路樹が増加している傾向がみられ、幹周60cm以上になると約60%以上で何らかの異常が認められていた(図2)。

## 3. 今後の展開

今後は、倒伏・落枝が発生しやすい樹種や樹木形状、植栽地形状等の発生要因を推定した上で、これら要因に対応した整備方法(倒伏しにくい樹種、根系が十分に伸長できる植栽地構造等)や維持管理方法(落枝を防ぐための剪定、効果・効率的な点検、不健全木の適切な処置等)の検討を行う予定である。

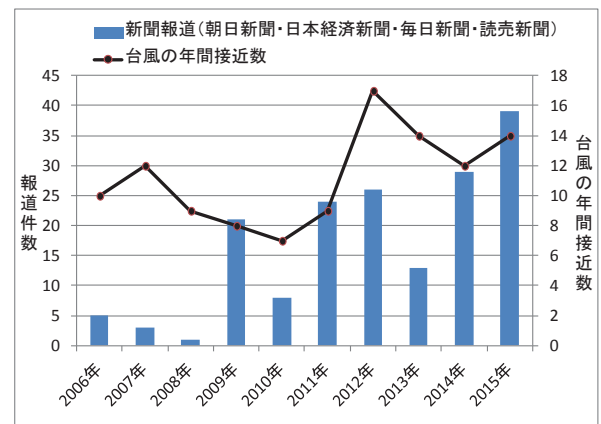


図1 新聞報道件数<sup>1)</sup>と台風の年間接近数<sup>2)</sup>

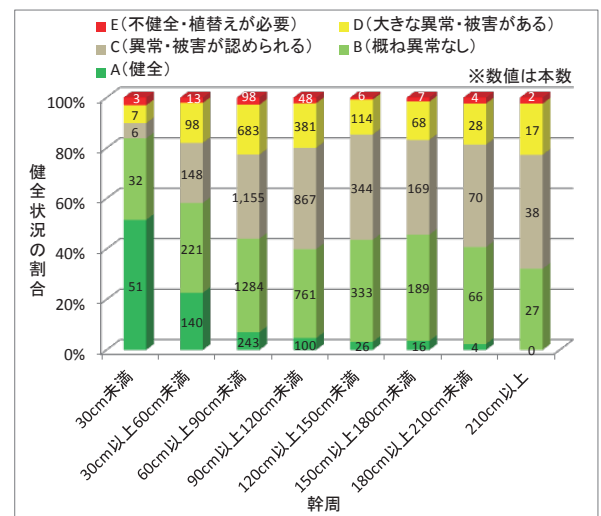


図2 街路樹の幹周別健全状況(国道の一例)

### 【参考】

- 1) 国立国会図書館蔵書検索・申込システム (NDL-OPAC)
- 2) 気象庁HP (<http://www.data.jma.go.jp>)